

Ⅱ. 教育研修事業 (教育研修分類 5)

1. 資格認定教育

- 1) 認定看護管理者教育課程 (認定看護管理者教育運営委員会)
 - (1) ファーストレベル
 - (2) セカンドレベル
 - (3) サードレベル
- 2) 認定看護師教育課程
 - (1) 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程

1) 認定看護管理者教育課程（認定看護管理者教育運営委員会）

(1) 第37回 第38回 ファーストレベル教育課程

- ①教育目的：看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する
- ②到達目標：
 1. ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる
 2. 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる
 3. 看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる
- ③受講要件：
 1. 日本国の看護師免許を有する者
 2. 看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者
 3. 管理業務に関心がある者

④カリキュラム

教科目	時間数	単元	教育内容	講師
特別講義	3	1) 論文・レポートの書き方	論文・レポートの基本構成 / 論文・レポートの書き方の基本 / 基本的な思考法 / 論文・レポートの体裁 / 文献活用の方法	日本看護キャリア開発センター 下山 節子
ヘルスケアシステム論Ⅰ	15	1) 社会保障制度概論	社会保障制度の体系 / 社会保障の関連法規	九州大学大学院医学研究院 馬場園 明
		2) 保健医療福祉サービスの提供体制	保健医療福祉制度の体系 地域包括ケアシステム / 地域共生社会	さくら病院 吉瀬 由美
		3) ヘルスケアサービスにおける看護の役割	看護連携/地域連携における看護職の役割 保健医療福祉関連職種を理解 看護の社会的責務と業務基準 看護関連法規/倫理綱領/看護業務基準	一般財団法人平成紫川会 玉井 照美
組織管理論Ⅰ	15	1) 組織マネジメント概論	組織マネジメントに関する基礎知識/看護管理の基礎知識	日本赤十字九州国際看護大学 倉岡 有美子
		2) 看護実践における倫理	看護実践における倫理的課題 / 倫理的意思決定への支援	第一薬科大学 中尾 久子
人材管理Ⅰ	30	1) 労務管理の基礎知識	労働法規 / 就業規則 / 健康管理 (メンタルヘルスを含む) / 雇用形態 / 勤務体制 / ワークライフバランス / ハラスメント防止	社会医療法人喜悦会 樋口 広行 千早病院 山本 美子
		2) 看護チームのマネジメント	チームマネジメント / リーダーシップとメンバーシップ / コミュニケーション 看護ケア提供方式 / ファシリテーション / 准看護師への指示と業務 / 看護補助者の活用	九州大学大学院 人間環境学研究院 山口 裕幸 小倉記念病院 松岡 さおり
		3) 人材育成の基礎知識	成人学習の原理 / 役割理論 / 動機づけ理論 人材育成の方法	九州大学大学院医学研究院 能登 裕子 日本看護キャリア開発センター 江藤 節代
資源管理Ⅰ	15	1) 経営資源と管理の基礎知識	診療・介護報酬制度の理解 / 経営指標の理解 / 看護活動の経済的効果	九州大学大学院医学研究院 馬場園 明 産業医科大学病院 三輪 ゆかり
		2) 看護実践における情報管理	医療・看護情報の種類と特徴 / 情報管理における倫理的課題 (情報リテラシー)	福岡看護大学 飯野 英親
質管理Ⅰ	15	1) 看護サービスの質管理	看護サービスの基本概念	山口大学大学院 角田 由佳
			看護サービスの質評価と改善 / 看護サービスの安全管理 / 看護サービスと記録	九州がんセンター 赤星 誠美
統合演習Ⅰ	21	演習	学習内容を踏まえ、受講者が取り組む課題を明確にし、対応策を立案する	筑後市立病院 大塚 まり子 聖マリア病院 神代 明美 福岡徳洲会病院 瀬上 希代子 大手町病院 高崎 玲子 福岡記念病院 野田 建二 福岡大学筑紫病院 山口 美和 嘉麻赤十字病院 山本 由香 糸島医師会病院 横田 敏子 福岡県看護協会 本多 里美
合計	114時間			

⑤受講状況

(人)

	実施日	教育日数	定員	応募者数	決定者数	受講者数
第37回	6/2(木)～8/5(金)	21日間	60	144	61	62
第38回	10/5(水)～12/8(木)	21日間	60		61	59

修了者数および認定者数・累計

(人)

令和3年度(第36回)までの累計	3,745
令和4年度(第37回)修了者数	62
令和4年度(第38回)修了者数	59
令和4年度(第37回 第38回)までの累計	3,866

⑥アンケート結果

(1) 自己の学習への取り組みに対する評価(教科目別平均)

4段階評価 3～0点

開催回	教科目	事前に十分に準備をして講義・演習に臨んだ	主体的に積極的に講義・演習に取り組んだ	集団の一員として学びやすい環境づくりに取り組んだ	提示された内容を含め十分に事後学習に取り組む予定である	シラバスに提示された教育目的・目標を達成した	今後の学習意欲が高まった
第37回	特別講義(レポートの書き方)	2.1	2.5	2.6	2.8	2.2	2.7
	ヘルスケアシステム論 I	2.1	2.5	2.6	2.6	2.4	2.7
	組織管理論 I	2.4	2.7	2.8	2.8	2.7	2.8
	人材管理 I	2.3	2.7	2.7	2.7	2.6	2.7
	資源管理 I	2.2	2.6	2.6	2.7	2.5	2.6
	質管理 I	2.4	2.6	2.7	2.7	2.6	2.7
	統合演習 I	2.8	2.9	2.8	2.9	2.7	2.9
第36回	特別講義(レポートの書き方)	2.1	2.6	2.7	2.8	2.3	2.8
	ヘルスケアシステム論 I	2.1	2.6	2.7	2.8	2.3	2.8
	組織管理論 I	2.4	2.8	2.9	2.9	2.7	2.9
	人材管理 I	2.4	2.8	2.9	2.8	2.8	2.8
	資源管理 I	2.3	2.7	2.8	2.8	2.7	2.7
	質管理 I	2.3	2.8	2.9	2.8	2.8	2.9
	統合演習 I	2.8	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9

⑦まとめ

今年度も新型コロナウイルス感染症禍での開催であったが、感染症対策を行いながら、前・後期2回ともに集合での研修開催ができた。期間中流行期と重なり、来館できない受講者が多くなる時期もあったが、講義や演習、統合演習 I のプレゼンテーション発表をオンライン受講とした。

受講者は積極的に取り組み、受講者同士の意見交換も活発で、交流も盛んにおこなわれていた。受講者の自己評価では「研修への主体的取り組み」「今後の学習意欲の高まり」が高く、また、教科目では統合演習 I が高評価であり、課題取り組みへの達成感があったようである。受講者同士の交流や、統合演習 I の取り組みについての感想が多く寄せられ、看護管理への関心が高まったようであった。

1) 認定看護管理者教育課程（認定看護管理者教育運営委員会）

(2) 第23回セカンドレベル教育課程

- ①教育目的：看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。
- ②到達目標：1. 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。
2. 保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。
- ③受講要件：1. 日本国の看護師免許を有する者
2. 看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者
3. 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している者、または、看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者
- ※副看護部長相当の職位とは、保健医療福祉に関連した組織において、看護管理を行う立場を指す。

④カリキュラム

教科目	時間数	単元	教育内容	講師
ヘルスケアシステム論Ⅱ	15	1) 社会保障制度の現状と課題	日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 社会保障費の（財源）構造と推移	九州大学大学院医学研究院 馬場園 明
		2) 保健医療福祉サービスの現状と課題	保健医療福祉サービスの提供内容の実際 病院、看護小規模多機能型居宅介護、 訪問看護ステーション等	株式会社在宅看護実践研究所 小林 裕美
		3) ヘルスケアサービスにおける多職種連携	多職種によるチームケア提供の実際と課題	医療法人相生会 松永 由紀子
組織管理論Ⅱ	30	1) 組織マネジメントの実際	組織分析 組織の変革 組織の意思決定	桜十字病院 菊池 健 医療法人社団福寿会 深澤 優子 九州大学病院 濱田 正美
		2) 看護管理における倫理	看護管理における倫理的課題 看護管理における倫理的意思決定	第一薬科大学 中尾 久子
		3) 教科目演習	看護管理における倫理的課題を共有し、 どのように意思決定を行うか検討する	長崎医療センター 西山 ゆかり 済生会福岡総合病院 大嶋 由紀
人材管理Ⅱ	45	1) 人事・労務管理	人員配置／勤務計画／ワークライフバランスの推進／タイムマネジメント／労働災害とその対策／労務管理に関する今日的課題	九州医療センター 原田 久美子
			ストレスマネジメント ハラスメント予防策と対応	大分県立看護科学大学 廣田 真里
		2) 多職種チームのマネジメント	人的資源の活用	久留米大学 古村 美津代
			リーダーシップの実際／コンフリクトマネジメント／看護補助者の育成	大分中村病院 岐部 千鶴
		3) 人材を育てるマネジメント	キャリア開発支援	日本赤十字九州国際看護大学 阿部 オリエ
人材育成計画	兵庫医科大学病院 丸山 美津子			
4) 教科目演習	看護師のキャリア開発、人材育成の視点で自部署の現任教育の在り方を分析し、成長し続ける教育システムを考える	北九州市立医療センター 杉本 優子 社会医療法人親仁会 坂本 幸穂		
資源管理Ⅱ	15	1) 経営資源と管理の実際	医業収支／経営指標の活用／費用対効果	九州大学 尾形 裕也
			適切な療養環境の整備	(株)日本メディカルプロパティマネジメント 相馬 陽胤
		2) 看護管理における情報管理	看護の評価・改善のための情報活用	福岡看護大学 飯野 英親
質管理Ⅱ	30	1) 看護サービスの質保証	クオリティマネジメント 医療・看護におけるクオリティマネジメント	福岡県立大学 石田 智恵美 山口大学大学院 角田 由佳 桜十字福岡病院 中川 朋子
			2) 安全管理	安全管理の実際／安全管理教育／法令遵守／災害対策

教科目	時間数	単元	教育内容	講師
統合演習Ⅱ	45	1) 統合演習ⅡA	自部署の組織分析に基づいた実践可能な改善計画を立案する	千早病院 山本 美子
				社会保険田川病院 井原 資子
				福岡大学筑紫病院 原田 英美
				福岡赤十字病院 山根 理恵子
				産業医科大学病院 深川 直美
		福岡県看護協会 大浦 一美		
2) 統合演習ⅡB	地域包括ケアシステムの実現に向け、多職種連携、他施設連携のあり方について理解を深め、自部署の課題を明らかにし、解決策を考える	飯塚病院 田村 美恵		
		原三信病院 宮崎さとみ		
3) 実習	地域連携を理解するための自施設実習を行う	福岡県看護協会 大浦 一美		
		各施設看護管理者		
合計 180時間				

⑤受講状況 (人)

実施日	教育日数	定員	応募者数	決定者数	受講者数
9/8(木)～12/16(金)	33日間	40	40	40	40

修了者数および認定者数・累計 (人)

令和3年度までの累計	1,115
令和4年度修了者数	39
令和4年度までの累計	1,154

⑥アンケート結果

(1) 講義・演習評価<自己評価> (教科目別平均)

4段階評価 3～0点

教科目	私は、提示された事前学習を含め十分に準備をして講義・演習に臨んだ	私は、主体的に講義・演習に取り組んだ	私は、講義・演習中、集団の一員として学びやすい環境づくりに取り組んだ	私は、提示された内容を含め十分に事後学習に取り組み予定である	私は、シラバスに提示された教育目的及び到達目標を達成した	私は今後の学習意欲が高まった
ヘルスケアシステム論Ⅱ	1.8	2.4	2.5	2.6	2.2	2.6
組織管理論Ⅱ	2.1	2.6	2.7	2.7	2.5	2.7
人材管理Ⅱ	2.3	2.7	2.7	2.7	2.6	2.7
資源管理Ⅱ	2.1	2.6	2.7	2.6	2.4	2.5
質管理Ⅱ	2.3	2.6	2.7	2.7	2.6	2.7
統合演習Ⅱ	2.7	2.8	2.9	2.8	2.7	2.8

⑦まとめ

昨年度同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受講定員数を縮小(50名⇒40名)し、3密(密集・密接・密閉)を避ける環境を整え、CO₂センサーの設置、講義前の健康チェック等予防策の徹底を図った。受講者も健康管理には十分に気を付けて研修に臨んでいた。しかし、期間中、受講者数名がコロナ陽性・濃厚接触者となったが、オンラインでの講義参加でき、全員が無事に修了することができた。また、台風接近時は、受講者の安全を考慮し、全員オンラインでの受講とした。受講者アンケート結果は総体的に高評価にて、「自己の役割を改めて見つめ直す機会となった。」「看護管理に必要な知識、技術、管理的視点を習得することができ、充実した研修だった。」「規模は違うが、同じ志を持った方々と共に学べ有意義な研修だった。」等のコメントもあり、効果的な研修であったと評価する。

1) 認定看護管理者教育課程（認定看護管理者教育運営委員会）

(3) 第12回サードレベル教育課程

- ①教育目的：多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族、地域住民及び社会に対して、質の高い組織的看護サービスを提供するために必要な知識・技術・態度を習得する
- ②到達目標：
 1. 保健医療福祉の政策動向を理解し、それらが看護管理に与える影響を考察することができる
 2. 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために、看護現場の現状を分析し、データ化して提示することができる
 3. 経営管理の視点に立ったマネジメントが展開できる
- ③受講要件：
 1. 日本国の看護師免許を有する者
 2. 看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者
 3. 認定看護管理者教育課程セカンドレベルを修了している者、または看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者

④カリキュラム

教科目	時間数	単元	教育内容	講師
ヘルスケアシステム論Ⅲ	30	1) 社会保障制度・政策の動向	社会保障の将来ビジョン グローバルな視点から見た保健医療福祉 WHOの活動、国連SDGs等	厚生労働省大臣官房国際課 深谷 果林
		2) 看護制度・政策の動向	看護制度の変遷と政策 / 看護政策に関する審議会・検討会 / 制度変化に伴う看護管理への影響と対応 / 看護戦略とパワーの活用 / 職能団体による政策への影響力	大阪信愛学院大学 岩澤 和子
		3) ヘルスケアサービスの創造	ヘルスケアサービスのマーケティング / 社会的企業（ソーシャルエンタープライズ） / テクノロジーの活用	九州大学大学院医学研究院 馬場園 明
			NGO、NPOのヘルスケアサービス ヘルスケアサービスのシステム構築 看護事業の開発と起業	常盤大学看護学部・大学院 角田 直枝
			在宅におけるヘルスケアサービス	(前)西九州大学 上野 幸子
			地域連携を基盤としたヘルスケアサービス	福岡みらい病院 井手 麻利子
組織管理論Ⅲ	30	1) 組織デザインと組織運営	ダイバーシティ / 組織運営に必要な能力 / 経営者としての成長と熟練	ヤマシタヘルスケアホールディングス株式会社 古閑 慎一郎
			組織のデザイン / 組織間のネットワークのデザイン / 地域連携ネットワークのデザイン	日本看護協会看護研修学校 吉村 浩美
		2) 組織における倫理	経営者に求められる役割と必要な能力 組織戦略とパワーの活用	九州大学病院 濱田 正美
			組織における倫理的課題 倫理的課題に対する組織的対応	日本赤十字九州国際看護大学 倉岡 有美子
			3) 教科目演習	トップマネジャーとして必要な倫理的 意思決定について検討する
人材管理Ⅲ	15	1) 社会システムと労務管理	能力評価のためのシステムの構築 / 建設的な労使関係の構築 / 人材フローのマネジメント / ハラスメントの組織的対応 賃金制度 / 人事考課 / 労働関係法規の最新の動向	川崎医療福祉大学 看護実践・キャリアサポートセンター 山田 佐登美 福岡東医療センター 末次 剛輝
		2) 看護管理者の育成	看護管理者の能力開発、活用	日本赤十字九州国際看護大学 倉岡 有美子
資源管理Ⅲ	30	1) 経営戦略	医療経営の特徴と課題 / 戦略策定 医療施設、介護福祉施設、訪問看護ステーション等の経営の特徴と課題	九州大学 尾形 裕也 産業医科大学病院 三輪 ゆかり
		2) 財務管理	財務会計 / 管理会計 / 資金管理	恩賜財団済生会支部神奈川県済生会 正木 義博
		3) 組織的情報管理	関連法規の遵守 地域における情報共有・活用	産業医科大学病院 林田 賢史
質管理Ⅲ	30	1) 経営と質管理	ガバナンスとアカウンタビリティ 医療・看護の質とデータ活用	山口大学大学院 角田 由佳 桜十字福岡病院 中川 朋子
		2) 組織の安全管理	安全文化の醸成 医療事故防止のための組織的対策 危機管理	九州大学大学院医学研究院 鮎澤 純子 福岡赤十字病院 佐藤 章子
		3) 教科目演習	医療・看護におけるクオリティマネジメントに関する自施設の課題を明確にし、 対策を考える	飯塚病院 森山 由香 神代病院 野田 順子

教科目	時間数	単元	教育内容	講師
統合演習Ⅲ	45	1) 統合演習ⅢA	学習内容を踏まえ、受講者自身が演習内容を企画し実施する	宗像医師会病院 今村 朋子 小西第一病院 安河内 清子 田川新生病院 小夏 香代 久留米大学病院 國武 栄子 福岡県看護協会 野島 三千代
		2) 統合演習ⅢB	21世紀の望ましい保健医療福祉政策について、看護の視点から政策の提言ができる	聖マリア病院 中島 成子 那珂川病院 松村 真理子
		3) 実習	経営の実際を学ぶための実習を受講者自身が企画し実施する	福岡県看護協会 野島 三千代 各施設看護管理者
合計 180時間				

⑤受講状況 (人)

実施日	教育日数	定員	応募者数	決定者数	受講者数
7/1(金)～9/28(水)	32日間	30	36	30	31

修了者数および認定者数・累計 (人)

令和3年度までの累計	324
令和4年度修了者数	31
令和4年度までの累計	355

⑥アンケート結果

(1) 講義・演習評価＜自己評価＞ (教科目別平均) 4段階評価 3～0点

教科目	私は、提示された事前学習を含め十分に準備をして講義・演習に臨んだ	私は、主体的・積極的に講義・演習に取り組んだ	私は、講義・演習中、集団の一員として学びやすい環境づくりに取り組んだ	私は、提示された内容を含め十分に事後学習に取り組む予定である	私は、シラバスに提示された教育目的及び到達目標を達成した	私は今後の学習意欲が高まった
ヘルスケアシステム論Ⅲ	2.1	2.5	2.7	2.7	2.4	2.8
組織管理論Ⅲ	2.2	2.7	2.8	2.8	2.6	2.8
人材管理Ⅲ	2.4	2.7	2.7	2.8	2.7	2.8
資源管理Ⅲ	2.2	2.6	2.7	2.8	2.7	2.8
質管理Ⅲ	2.4	2.7	2.6	2.8	2.7	2.8
統合演習Ⅲ	2.4	2.8	2.9	2.9	2.5	2.8

⑦まとめ

通常通りのスケジュールで開催した。感染症の拡大状況により講師や受講者がリモートで参加することもあったが、Web会議ツール(zoom)を活用しグループワークや演習等も含めて予定通り実施できた。統合演習Ⅲの実習も希望する施設で対面で可能となり成果のある実習となった。閉講時アンケート結果から、「受講の効果は、とてもあった・まあまああった100%」、「受講の満足度は、とてもあった・まあまああった100%」と高評価であった。自由記載として、「仕事での焦燥感が少しずつなくなる感覚が実感できた。」や「対面でできたからこそ、受講生同士が情報交換ができ、学びを深めることができた。」「この学びを現場で生かせるように取り組む。」等があり、トップマネージャーとしての今後の活動の動機づけとなったことが伝わる反応であった。結果として教育課程の目的・目標が達成できたと考える。

今年度からの試みとして、教育課程開催中に認定看護管理審査受験対策として既修了者と受講者との意見交換会を設けた。これにより申請時の留意点、一般問題・論述問題対策を確認でき、受験までのスケジュールを具体化することが出来る良い情報交換の場となった。

2) 認定看護師教育課程

(1) 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程

①教育目的:

1. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族に対し、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

②期待される能力:

1. 褥瘡や下肢創傷などの創傷を有する患者及びそのリスクがある患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。
2. ストーマ保有者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。
3. 排泄障害を伴う患者及びそのリスクがある患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。
4. 脆弱皮膚をもつ患者に対しアセスメントを行い、皮膚障害を予防する専門的なスキンケアができる。
5. 創傷管理や排泄管理を要する患者にフィジカルアセスメントを行い、かつ心理的、社会的及びスピリチュアルな問題を理解し、問題解決のための援助ができる。
6. 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族が病状に応じた自己管理ができるよう、生活に則した効果的な指導ができる。
7. 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
8. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
9. 皮膚・排泄ケアの実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導、相談対応・支援を行うことができる。

③教育カリキュラム

項目	教科目	教科目のねらい	単元	時間数 (単位)	講師
共通科目	1. 医療安全学： 医療倫理 (必須)	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性(自己決定)を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	15 (1)	中尾 久子 浦邊 尋美
	2. 医療安全学： 医療安全管理 (必須)	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	15 (1)	秋好美代子
	3. 医療安全学： 看護管理 (必須)	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	15 (1)	樋口 靖子 角井めぐみ 浦邊 尋美
	4. チーム医療論 (特定行為実践) (必須)	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	15 (1)	原田 美佐 山口 弘恵
	5. 相談 (特定行為実践) (必須)	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	15 (1)	永石 恵美 園田みずき 角井めぐみ
	6. 臨床薬理学： 薬理作用 (必須)	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性(小児/高齢者)を含む	15 (1)	鶴木亜矢子 内山 将伸 宮崎 元康 福田まひる

項目	教科目	教科目のねらい	単元	時間数 (単位)	講師
共通科目	7. 指導 (必須)	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育について 3. 教材観(主題観)、対象者観、指導観について 4. 学習指導案の作成・発表	15 (1)	窪田 恵子 青木 久恵 角井めぐみ
	8. 対人関係 (必須)	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	15 (1)	寺岡征太郎 角井めぐみ 浦邊 尋美
	9. 医療情報論 (選択)	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	15 (1)	徳永智恵美 土肥佐和子

項目	教科目	教科目のねらい	単元	時間数 (単位)	講師
専門科目	1. 皮膚・排泄 ケア概論	1. 皮膚・排泄ケア領域の概念や歴史について理解する。 2. 皮膚・排泄ケア領域において必要となる緩和ケアについて理解する。 3. 皮膚・排泄ケア領域において必要となるリスクマネジメントについて理解する。 4. 皮膚・排泄ケア領域における診療報酬について理解する。 5. 皮膚・排泄ケア領域における地域連携について理解する。 6. 褥瘡管理における医療の質評価について理解する。 7. 医療チーム活動における認定看護師の役割について理解する。	1. 皮膚・排泄ケア (創傷・オストミー・失禁)の概念 1) 対象理解 2. 皮膚・排泄ケア (創傷・オストミー・失禁)の歴史 3. 皮膚・排泄ケア領域における緩和ケア 4. 皮膚・排泄ケア領域におけるリスクマネジメント 1) 災害に備えた対策 5. 皮膚・排泄ケア領域に関連する診療報酬の現状と将来予測 6. 皮膚・排泄ケア領域における地域包括ケアシステム 1) 在宅療養における地域連携 2) 在宅療養における支援体制 7. 褥瘡管理における質の評価 1) 褥瘡発生率・褥瘡有病率 2) 褥瘡の治癒期間 3) 褥瘡予防用品の整備 8. 組織ダイナミクス 1) チーム活動における認定看護師の役割 (問題解決能力等を含む)	15 (1)	溝上 祐子 近藤三亀代 大村久美子 柳迫 昌美 田中多喜子 浦邊 尋美
	2. 皮膚のアセス メントとケア	1. 専門的なスキンケアを行うために必要な皮膚の形態・機能について理解する。 2. 皮膚に影響を与える因子について理解する。 3. 皮膚の状態に応じたアセスメント方法とケアについて理解する。	1. 皮膚と皮下組織(骨を含む)に関する局所解剖 2. ヒューマンインターフェイス概念 3. 皮膚に影響を与える内的・外的因子 1) 内的因子: 年齢・疾患・免疫能等 2) 外的因子: 物理的・化学的・刺激等 4. 皮膚のアセスメント 1) 皮膚の症候: ドライスキン・浸軟等 2) 皮疹の種類と特徴 3) 皮膚損傷: 表皮剥離・びらん・潰瘍等 4) 皮膚感染症: 真菌・細菌 5. 脆弱皮膚の特徴(病態を含む)とケア 1) 高齢者 2) 低出生体重児 3) 浮腫(リンパ浮腫含む) 4) 黄疸 5) 治療: 化学療法・放射線療法・ステロイド・移植(GVHD)等 6. スキンケア用品 1) 予防的スキンケア用品: 洗浄剤・保湿剤・皮膚保護剤・被膜剤・剥離剤等 2) 治療的スキンケア用品: 皮膚保護剤等 3) その他: 医療用粘着テープ	30 (2)	溝上 祐子 深川 修司 間宮 直子 浦邊 尋美

項目	教科目	教科目のねらい	単元	時間数 (単位)	講師
専門科目	3. 精神面のアセスメントとケア	1.患者・家族の心理をアセスメントするために必要となる理論について理解する。 2.患者・家族の心理状態に応じたケアについて理解する。	1.ストレスコーピング 1) ストレス理論 2) ストレスを引き起こす要因 3) 治療とストレスマネジメント 4) 援助方法 2.ボディイメージ 1) ボディイメージの定義 2) ボディイメージの変化に対する適応 3.悲嘆 1) 悲嘆の定義 2) 悲嘆反応 3) 援助方法 4.危機理論 1) 危機の定義 2) 危機モデル 3) 危機介入 5.家族理論 6.スピリチュアルケア 7.セクシャリティ	15 (1)	梶原 睦子 寺岡征太郎 三木 佳子 角井めぐみ 浦邊 尋美
	4. 栄養のアセスメントと管理	1.栄養状態をアセスメントするために必要となる評価方法について理解する。 2.皮膚・排泄ケア領域に関連する栄養管理を行うために必要となる管理方法及び栄養剤の種類と特徴について理解する。	1.栄養状態のアセスメント 1) 主観的包括的評価 (SGA: subjective global assessment) 2) 客観的栄養評価 (ODA: objective data assessment) 3) 栄養経路 2.栄養管理 1) 周術期の栄養管理 2) 栄養必要量の算定 3) 経口摂取による栄養管理: 栄養補助食品の種類と特徴 4) 経腸栄養管理: 経腸栄養剤の種類と特徴	15 (1)	石橋 生哉 斎藤 恵子
	[排泄管理] 5. 排便機能に破綻をきたす病態の理解と評価	1.消化管の形態・機能について理解する。 2.ストーマを造設する疾患とその治療について理解する。 3.排便障害の病態と治療について理解する。	1.消化管の形態・機能 (消化・排便のメカニズムを含む) 2.ストーマを造設する疾患と治療 1) 悪性腫瘍 2) 炎症性腸疾患 3) 先天性異常(二分脊椎を含む)等 4) 脊髄損傷等 3.ストーマ造設に伴う合併症 (性機能障害を含む) 4. 排便障害の病態と治療 (検査を含む) 1) 貯留能障害: 薬物・手術療法 2) 結腸性(非直腸性)障害: 薬物・手術療法	30 (2)	赤木 由人 荒木 靖三 石橋 生哉 平井 郁仁 廣瀬龍一郎 佛坂 正幸 角井めぐみ 浦邊 尋美
	6. 排尿機能に破綻をきたす病態の理解と評価	1.泌尿器の形態・機能について理解する。 2.尿路変向術を必要とする疾患とその治療について理解する。 3.排尿障害の病態と治療について理解する。	1.泌尿器の形態・機能 1) 上部・下部尿路の解剖 2) 排尿の生理(排尿のメカニズムを含む) 2.尿路変向術(膀胱ろう・腎ろうを含む)を必要とする疾患と治療 1) 悪性腫瘍 2) 結石 3) 先天性異常(二分脊椎を含む)等 4) 脊髄損傷等 3.尿路変向術に伴う合併症(性機能障害を含む) 4. 排尿障害の病態と治療(検査を含む) 1) 蓄尿機能障害: 薬物・手術療法・保存療法 2) 排出障害: 薬物・手術療法・保存療法	30 (2)	入江慎一郎 石井 龍 武井実根雄 松岡 弘文 一倉 祥子 相島真奈美 角井めぐみ 浦邊 尋美

項目	教科目	教科目のねらい	単元	時間数 (単位)	講師
専門科目	7.ストーマケア	1.ストーマ用品について理解する。 2.周手術期のストーマ管理について理解する。 3.ストーマの長期管理について理解する。 4.成長に応じたストーマ管理について理解する。 5.ストーマ周囲のスキントラブルを理解し、対処について理解する。 6.ストーマの晩期合併症を理解し、アセスメントできる。 7.ストーマ保有者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。	1.ストーマ用品の種類と特徴 2.周手術期のストーマ管理 3.ストーマの長期管理 1) ストーマ外来 2) 排泄管理法 3) 患者会 4) 社会保障 4.小児期から青年期におけるストーマ管理 1) ストーマに関する身体的問題のアセスメント 2) 心理・社会的状態のアセスメント 5.成人期から老年期におけるストーマ管理 (認知症・独居等を含む) 1) ストーマに関する身体的問題のアセスメント 2) 心理・社会的状態のアセスメント 6.管理困難なストーマケア 1) ストーマ周囲の皮膚障害のアセスメントとケア(ABCD-stoma®を含む) 2) その他のストーマ合併症	30 (2)	辰島 美和 直海 倫子 岡本加代子 松尾 規佐 石井美紀子 角井めぐみ
	8.排泄障害のケア	1. 排便障害・排尿障害のアセスメントができる。 2. 排泄ケア用品の種類や特徴について理解する。 3. 排泄障害の要因や程度にあったケアについて理解する。 4. 排泄障害時のスキンケアについて理解する。 5. 排泄障害がある患者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。	1.排便障害のアセスメント 1) 排便状態のアセスメント 2) 排便障害に関する身体的問題のアセスメント 3) 心理・社会的状態のアセスメント 2.排泄ケア用品(排便)の種類と特徴 3.排便障害のケア:行動療法・強制排便法 4.排便コントロール:食事療法・薬物療法 5.下部尿路機能障害のアセスメント 1) 下部尿路症状のアセスメント 2) 下部尿路症状に関する身体的問題のアセスメント 3) 心理・社会的状態のアセスメント 6.排泄ケア用品(排尿)の種類と特徴 7.下部尿路機能障害のケア:行動療法・自己導尿・骨盤底筋訓練・バイオフィードバック療法等 8.排泄障害時のスキンケア 9.成長・発達に応じた排泄障害の管理 1) 小児期から青年期 2) 成人期から老年期	30 (2)	積 美保子 高崎 良子 松尾 規佐 石井美紀子 溝上 祐子
	[創傷管理] 9.創傷の病態と治療	1.創傷の種類と病態について理解する。 2.創傷治癒過程とメカニズムについて理解する。 3.創傷治癒を遅延させる局所的要因・全身的要因について理解する。 4.創床環境調整(Wound bed preparation)理論について理解する。 5.創傷管理における疼痛緩和について理解する。 6.慢性創傷の治療について理解する。 7.褥瘡の病態と治療について理解する。 8.医療関連機器圧迫創傷の病態と治療について理解する。 9.下肢創傷の病態と治療について理解する。 10.ろう孔の病態と治療について理解する。 11.創部哆開創(SSIを含む)の病態と治療について理解する。 12.スキンケア(皮膚裂傷)の病態と治療について理解する。	1.創傷の種類と病態 1) 急性創傷 2) 慢性創傷 2.創傷の治癒過程とメカニズム 3.創傷治癒を遅延させる因子 4.創床環境調整(Wound bed preparation) 1) デブリードマン 2) 滲出液管理 3) 感染管理 (バイオフィルム及びクリティカルコロナイゼーションを含む) 5.創傷管理における疼痛緩和 6.慢性創傷の治療 1) 陰圧閉鎖療法 2) 薬物療法 3) 手術療法 7.褥瘡の病態と治療 1) 褥瘡の発生機序 2) 褥瘡の分類、アセスメント・評価 3) 治癒のアセスメントとモニタリング(創傷治癒過程、TIME理論等) 4) 褥瘡及び創傷治癒と栄養管理 5) DESIGN-R®に基づいた治療指針 6) 褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム 7) 感染のアセスメント 8) 褥瘡の治癒のステージ別局所療法 8.医療関連機器圧迫創傷の病態と治療	30 (2)	元村 尚嗣 高木 誠司 伊東 孝通 亀井 英樹 深川 修司 竹内 一馬

項目	教科目	教科目のねらい	単元	時間数 (単位)	講師
			9.下肢創傷の病態別治療 1) 糖尿病性足病変 2) 末梢動脈疾患(PAD) 3) 静脈性潰瘍 4) 血行再建 10.ろう孔の病態と治療 1) 胃ろう・腸ろう 2) 消化管外ろう 11.創部哆開創(SSSIを含む)の病態と治療 12.スキン-テア(皮膚裂傷)の病態と治療		
	10.創傷のアセスメントと管理 I	1.創傷を有する患者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。 2.創傷被覆材の種類と特徴について理解する。 3.創傷の状態に合わせた、創傷被覆材や薬剤の選択方法について理解する。 4.褥瘡の発生機序と予防方法について理解する。 5.褥瘡のアセスメントができる。 6.褥瘡の治療環境を整えるケアについて理解する。	1.創傷を有する患者のアセスメント 1) 創傷を有する患者の身体的問題のアセスメント 2) 心理・社会的状態のアセスメント 2.創傷のケア(急性・慢性) 1) 創傷被覆材の種類と特徴 2) 創傷被覆材の選択の実際 3) 創傷に合わせた薬剤の選択 3.褥瘡管理 1) 発生機序 2) リスクアセスメント 3) スキンケア 4) 体圧の調整とポジショニング(車いすを含む) 5) 褥瘡の局所アセスメント(DSIGN-R [®] を含む)・超音波検査・皮膚温 6) 褥瘡の局所ケア	30 (2)	酒井 宏子 黒川 正人 鵜木亜矢子 田中マキ子 森川 綾 下畑 由美
	11.創傷のアセスメントと管理 II	1.医療関連機器圧迫創傷のケアについて理解する。 2.下肢創傷のアセスメントができる。 3.下肢創傷のケアについて理解する。 4.ろう孔ケアの目的と方法について理解する。 5.創部哆開創(SSSIを含む)のケアについて理解する。 6.スキン-テア(皮膚裂傷)のケアについて理解する。	1.医療関連機器圧迫創傷管理 1) 発生機序 2) アセスメントとケア 2.下肢創傷管理 1) 下肢創傷のアセスメント(血流障害・神経障害の評価)、予防ケア 2) 下肢創傷のケア(フットケア、日常生活指導、フットウエア、局所ケア等) 3.ろう孔管理(ドレーンを含む) 1) ろう孔の局所アセスメント 2) ろう孔のケア(パウチング法、吸引法等) 3) 特殊なろう孔ケア(胃ろう、気管切開孔等) 4.創部哆開創(SSSIを含む)の管理 1) 創部哆開創(SSSIを含む)のアセスメントとケア 5.スキン-テア(皮膚裂傷)の管理 1) 発生機序 2) アセスメント(STARスキン-テア分類を含む)とケア	30 (2)	酒井 宏子 森山やよい 田淵 宏 間宮 直子 直海 倫子 角井めぐみ 浦邊 尋美

項目	教科目	教科目のねらい	単元	時間数 (単位)	講師
学内演習	1.学内演習	1.排泄管理技術を身につける。 (ストーマケア・失禁ケア) 2.創傷管理技術を身につける。 (褥瘡ケア・下肢創傷ケア) 3.患者のQOLの向上を目指した看護サービスが提供できるための集団教育の方法を理解し、効果的なプレゼンテーションができる。 4.実習で関わった事例を皮膚・排泄ケアの視点をもって報告することができる。 5.皮膚・排泄ケア領域で最近の論点となるような問題点や最近のケアについて専門的な立場で将来を見通した考察ができる。	1.排泄管理技術演習 排泄管理のスキルを身につけ、個々のケースに応じた実践能力を養う。 2.創傷管理技術演習 創傷管理のスキルを身につけ、個々のケースに応じた実践能力を養う。 3.プレゼンテーション 講義形式の教育活動の準備・実施・評価を通じて、患者のQOLの向上をめざした質の高い皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)サービスが提供できるための集団教育方法を修得する。 4.ケースレポート 1) 皮膚・排泄ケア (創傷・オストミー・失禁)の対象となる患者に全人的なケアを行うための的確なアセスメントを実施する。 2) 皮膚・排泄ケア認定看護師としての役割と機能を十分に発揮できるケア計画を立て実践する。 3) 科学的論文等を活用し、看護実践を論理的に評価・フィードバックし、看護ケアの専門性について考察を深め、報告する。	60 (2.5)	穴井 友恵 仮屋崎通子 近藤三亀代 高口 則子 酒井 宏子 下畑 由美 柴田 真弓 澁田 美江 園田みずき 富田美和子 丸尾 香子 山田 陽子 角井めぐみ 浦邊 尋美
実習	2.臨地実習	1.褥瘡や下肢創傷などを有している患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。 2.ストーマ保有者や失禁を伴う患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。 3.創傷管理や排泄管理を要する患者にフィジカルアセスメントを行い、かつ心理的、社会的及びスピリチュアルな問題を理解し、問題解決のための援助ができる。 4.創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族が病状に応じた自己管理ができるよう、生活に則した効果的な指導ができる。 5.創傷管理や排泄管理を要する患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 6.より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 7.皮膚・排泄ケアの実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる。	皮膚・排泄ケア (創傷・オストミー・失禁)の対象を的確に判断し、QOLの向上をめざした質の高い看護サービスを提供するため「ケアの実践能力」・「患者及びスタッフへの指導能力」・「スタッフからの相談に応じる能力」を養う。 1.創傷ケア 1) 創傷を有する患者のケア見学を含めて20例以上 2) 創傷を有する患者のケアの展開1例以上 2.ストーマケア 1) ストーマを有する患者のケア見学を含めて15例以上 2) ストーマを有する患者のケアの展開1例以上 3.失禁ケア 1) 排泄障害を有する患者のケア見学を含めて5例以上 2) 排泄障害を有する患者のケアの展開1例以上	180 (4)	臨地実習 指導者 教員
総 時 間 数				660	

共通科目	135 時間
専門科目	285 時間
演習/実習	60/180 時間
総時間数	660 時間

④臨地実習施設

福岡県内 11 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・産業医科大学病院 ・九州大学病院 ・福岡徳洲会病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯塚病院 ・福岡大学病院 ・久留米大学病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・九州医療センター ・福岡大学筑紫病院 ・筑後市立病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・浜の町病院 ・福岡赤十字病院
福岡県外 1 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学医学部附属病院 			

⑤プログラム

日程	内容	日程	内容
5/10	入講式、オリエンテーション	9/12～10/22	臨地実習
5/12～	福岡県看護協会にて授業開始	11/9	ケースレポート発表、実習指導者会
6/6～	定期試験開始	11/16	修了試験
6/24～	演習開始	11/28	修了認定合格発表
8/2	プレゼンテーション発表	12/8	閉講式
8/9	実習指導者会	12/15	2023年度 入学試験
8/11～15	夏季休暇	12/20	2023年度 入学試験合格発表

⑥受講生の背景

1. 受験状況 (人)

受験者数	合格者	入講者数	再履修生	修了認定者数
50	24	24	0	22

2. 年齢構成 (歳)

平均年齢
39

3. 都道府県

N=24 (人)

福岡	長崎	大分	熊本	鹿児島	沖縄	山口
6	1	1	2	1	1	6
香川	愛媛	兵庫	大阪	神奈川	埼玉	
1	1	1	1	1	1	

⑦まとめ

新型コロナウイルス感染拡大状況の動向を注視しながら、講師のご協力のもと、対面授業やZOOMによる遠隔授業等を柔軟に取り入れ、安全に履修できる学習環境を整えた。臨地実習は、県内11施設、県外1施設のご協力のもと実施することができた。

開講後すぐにポートフォリオを用いた目標管理を実施した。目標管理は実習中も継続して行い、カリキュラムの教育目標と実習目標に対し、自己の課題を明確にしながら、達成できるように随時、実習指導者と教員が連携しながら支援した。対面が制限される中、定期的に各自の目標達成度を発表することで目標管理や学びの共有ができた。

受講期間修了後は、10月の日本看護協会認定審査の全員合格をめざし、教育課程修了者に対しフォローアップ研修を4回実施した。